



“3年ぶりに”  
～令和4年度を振り返って～

舞鶴市テニス協会  
会長 江宮 文夫

令和5年度（2023年度）が明けました。皆様にとって充実した1年になりますよう願っています。

世界的、社会的には安心安全を気にせざるを得ないような状況が続いています。私たちがテニスを気持ちよく楽しめるためにも世の中が安定した状態になることを願っています。

さて、令和4年度はコロナ禍にあって中止にしてきた「小川杯若丹クラブ対抗戦」や「市民スポーツ祭」、「京都北部テニストーナメント」などを“3年ぶりに”開催できました。参加者数は若干減ったもののテニスを通して交歓し競い合うことの〈面白さ〉を、参加された皆さんは実感されたのではなかったでしょうか。そして、これまでは、各種大会・行事が開かれることは毎年のこと、当たり前のこと、と思っていたものが、中止になったことを通して、決してそうではないことを知らされたように思います。

ところで、本市テニス協会が主催する大会は舞鶴選手権の「第64回」や藤川杯クラブ対抗戦の「第58回」を始めとして半世紀近く続けて行われてきたものが少なくありません。これらの大会を継続させてきたのは、まずは参加者の皆さんであり、そして各大会の運営を分担し合ってきた「担当クラブ」であり、さらに「市民スポーツ祭」、「京都北部テニストーナメント」などを運営し、各種大会・行事を支えてきた常務理事・理事の皆さんです。

諸大会・行事を通して、参加者の方々が喜怒哀楽を味わい、国内で活躍する選手が育ってきました。

今年度も予定行事を開催します。皆様の参加・他の方への呼びかけ、ご協力をよろしくお願いいたします。

令和5年1月吉日